

家族それぞれの北陸を満喫する旅の創出プロモーション

～ 鈴木福くん、夢ちゃん兄妹が出演 ～

夏に引き続きお客様に等身大のイメージをお持ちいただくため、人気子役の鈴木福くん、夢ちゃん兄妹にご出演いただき、3世代家族の一員となっておりました。

この家族が夏の3世代での旅行を終え、新しい北陸の魅力と家族の絆を発見しました。この秋は、夫婦旅、女子旅、大人旅などで、家族それぞれの北陸を満喫する旅へ出発します。その旅に出発するまでのストーリーを通じて、旅行の楽しみを感じていただくプロモーションを展開します。

具体的なプロモーションとしては、WEBを始め、駅のポスター、パンフレット等のクロスメディアで連動して展開いたします。

ストーリーについて

(1) 家族構成

西本家 祖父：祥太郎 祖母：千恵子

井原家 父：真二 母：まさみ 長男：風太（鈴木福くん） 長女：夢葉（鈴木夢ちゃん）

(2) 夏のストーリー（要約）

「今年の夏は3世代旅行に行こう」

定年を過ぎた父の発案により、祖父母・娘夫婦・孫の3世代家族で旅行に出かける西本家と井原家。だが、世代が違えば好みも違う。

家族それぞれの希望とワガママを叶える旅先はどこか。

娘であり母である井原まさみは、名案浮かばず途方にくれる中、

頼れる職場の先輩のアドバイスを得て、一家はサンダーバードで、いざ「北陸」へ。

ついに迎えた夏休み。3世代家族の旅立ち。はじめて乗るサンダーバード。

富山県立山は、黒部ダム。「ダムって、プールよりでっかくて、カッコいいね!」いつまでも幼児と思っていた風太がダムに反応。

「お義父さんがハマるとはなぁ」と夫が感心している。石川県の金沢21世紀美術館。

「ガオーーッ!」さっきから、風太はそれしか言わない。まるで、自分が恐竜にでもなったような。福井県立恐竜博物館。

誰かの希望に合わせて、誰かがつきあうのではなくてみんなが楽しむ旅。

家族、つながる、北陸へ。

2013年秋・新北陸発見！ みんなの北陸。 ～それぞれの北陸、ふかまる。～

1.長女・まさみの企み

そう思ったのは、私だけ？

夏の北陸 3 世代旅行、世代が違ってひとつの場所を楽しめて、忘れられない旅になった。だから思った。父も母も、夫も、子供もきっと同じはず。

「次は、別のメンバーで、北陸の違う場所へ」

この夏の北陸旅行のみやげ話を、お隣りに住む大学生の美咲ちゃんに話したら、「実は私も前から北陸の伝統美術に興味があって、この秋に大学のクラスメートと行く予定なんです。」と言った。

私はその会話で大学時代の友人を思い出し、バレーボール部メンバーで「女子会旅行」を計画したいと思ったのだ。

3 世代旅行では、家族を引率する添乗員さんだったけど、今回は部長のみきちゃんが、リードしてくれるはず。4年後輩の景子も誘おう。

ダイエットなんて関係ない、食べたいものは逃さない！ 女同士、しゃべっていたらお腹もすぐ空く。

そうやって、思い出を紐解くことで、明日へ向かう力を得るのだと思う。

家族たちはと言うと・・・

子供たちは、「もう1回恐竜見たい、でっかい山に行きたい」と言っていたし、夫は「次は温泉だな」とつぶやいていたのを覚えている。

子供の思いは、叶えてやりたいが、夫は油断ならない。家ではゴロゴロしているだけなのに、絶対に「男旅」を企んでいる。男同志の集まりも、女同志と同じようにストレスを壊す力があるのだろうか。

私も女子会旅行を狙っているし、機嫌よく送り出そうか。

2.祖父・祥太郎の決心

それもこれも、長女のおかげだ。

定年後、家にいることが多く、妻と同じ空気を吸う時間も当然増える。しかし、二人でいるのに、孤独なのだ。妻の視線の先には、私とは違う別の景色がいくつもあるような、小さな孤独。

その孤独の火の粉を、振り払う勇気をくれたのは、長女一家と出かけた、夏の北陸3世代旅行だ。

妻が見ている景色の岩陰の後ろから、私は飛び出す。妻と向き合い、彼女を知り、彼女を聞く。

その第一歩が、新婚旅行以来になる「妻と二人きり旅行」だ。

応じてくれるだろうか。陶芸サークルにどっぷりの妻が。

3.祖母・千恵子の解放

夫は器用な人なので、2泊3日くらい妻がいなくても、問題ない。夏の北陸3世代旅行は、本当に良かった。次は陶芸サークルの友達と、夏に行けなかった九谷焼美術館に行こう。

名案だ。家族みんなもいいけれど、同じ趣味の友達との旅は、さぞかし盛り上がるに違いない。

子供も巣立ち夫も定年。家族から解放された私はこれからの人生、自分のしたいことを思い切り楽しもう。

4.長女・まさみの実現

夢は見るものでなく、叶えるもの。

大学バレーボール部の顧問・藤岡先生の口癖だ。今はとても共感する。

このセリフに従って、「女子会旅行に行きたいなあ、いつか」、ではなく、「行く」と決めた。

サンダーバードの発車音が、拍手をくれたように、耳の中でよみがえった。

なんだ、みんな同じなんだ。仕事や家事に追われてるみんなを、旅行に誘うのもどうかとも思った。

でも、みんな待っていた。私たちの人生は、仕事や家事がすべてじゃない！みんな心で叫んでた。

叫ぶ代わりに、食べた。食べまくった。北陸のグルメを。

今回の女子旅リーダーのみきちゃんは、「食」満喫計画を組んでいたのだ。

食べて しゃべって 食べて食べて。私も、4年後輩の景子も大満足だ。

「うちら、スポーツのように食べてるね」

両親もこんな風にもう一度、北陸旅行に出かけてほしい。できれば夫婦2人で。元気なうちに2人きりで。とくに母が北陸をとて気に入りたから。

「まだ、行きたいところがあったなあ・・・」サンダーバードの車窓の景色をなごり惜しそうに見つめる母を思い出して、ちょっと涙が出てきた。父は、気づいていただろうか。

5.両親・祥太郎と千恵子の感動

何も考えずに買っていた。北陸乗り放題きっぷ。

サンダーバードに乗れて、北陸を周遊できるとても便利なきっぷだ。

私にはこれしか出来ない。黙ってきっぷを差し出す。それが、北陸夫婦旅行の誘いだ。

あの夫がまさか夫婦旅行に誘ってくれるなんて！でも、悪くないかもしれない。

子供たちや孫とではなく、のんびり夫婦のペースで自然美を楽しみ、観光地を散策する。

忘れかけていた感覚が心の中に、温かく広がっていく。誘ってくれてありがとう。

サンダーバードは、待っている。家族それぞれが、新たな夢を乗せて走る日を。

3世代旅行から枝分かれして生まれた、新しい旅のページへ、みんなをつなげることを。

家族それぞれが、見つめる先に、夏とは違う、別の顔の北陸が佇む。やさしい笑顔で手を振る。

みんなが憧れの旅を叶えてほしい。その旅は、次から始まる日々に新しい力をくれるから。

また、会いにいきます。

家族それぞれが、それぞれの心を携えて。凜として走る、サンダーバードで。

それぞれの北陸、ふかまる。

2013年秋 新北陸発見。